

**製品名: PSIP1 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM80937**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,ICC,ELISA
反応性	人間、ネズミ、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG1
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:200-1:1000,ICC 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	75kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PSIP1
別名	p52; p75; PAIP; DFS70; LEDGF; PSIP2; MGC74712; PSIP1
遺伝子 ID	11168.0
SwissProt ID	O75475
免疫原	大腸菌で発現したヒト PSIP1 の精製された組み換え断片。

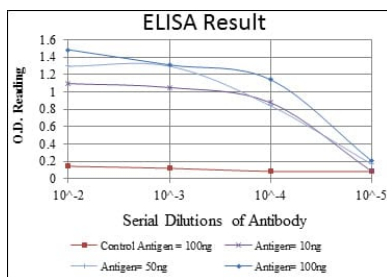
**背景**

神経上皮幹細胞の分化および神経発生に関与する転写共役因子。特に、水晶体上皮細胞の遺伝子調節およびストレス応答に関与する。水晶体上皮細胞から線維細胞の終末分化において重要な役割を果たす可能性がある。ストレス誘発性アポトーシスにおいて保護

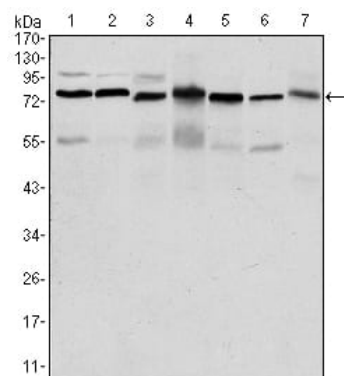
的な役割を果たす可能性がある。アイソフォーム 2 はより一般的で強力な転写共役因子である。アイソフォーム 2 は、pre-mRNA スプライシングを調整するアダプターとしても機能する可能性がある。レンチウイルス統合における細胞補因子。組織特異性：広く発現している。胸腺で高レベルに発現。胎児および成体の脳で発現。ニューロンで発現するが、アストロサイトでは発現しない。成体脳と比較して胎児脳で著しく増加している。成体脳では、脳室下帯 (SVZ) および海馬で発現し、他の部位では検出されない。胎児脳では、胚神経上皮および皮質板領域で発現する。

## 研究分野

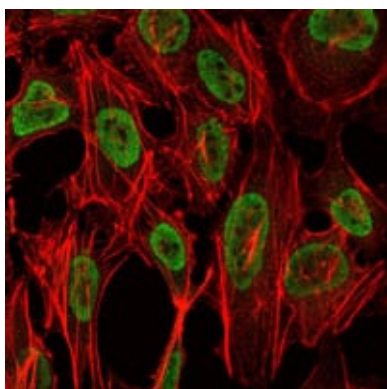
## 画像データ



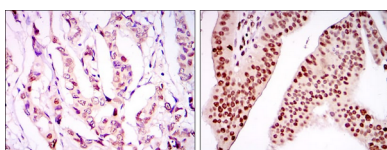
赤: コントロール抗原 (100 ng); 紫: 抗原 (10 ng); 緑: 抗原 (50 ng); 青: 抗原 (100 ng);



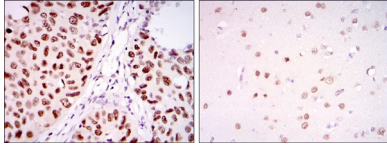
PSIP1 マウス mAb を用いた HepG2 (1)、Jurkat (2)、K562 (3)、Cos7 (4)、PC-12 (5)、Hela (6)、および NIH/3T3 (7) 細胞溶解物に対するウエスタンブロット解析。



PSIP1 マウス mAb (緑) を用いた NIH/3T3 細胞の免疫蛍光染色。赤: アクチンフィラメントを Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識。



DAB 染色による PSIP1 マウス mAb を使用した、パラフィン包埋ヒト乳がん組織 (左) と卵巣がん組織 (右) の免疫組織化学分析。



DAB 染色による PSIP1 マウス mAb を使用した、パラフィン包埋ヒト肺癌組織 (左) と脳組織 (右) の免疫組織化学分析。